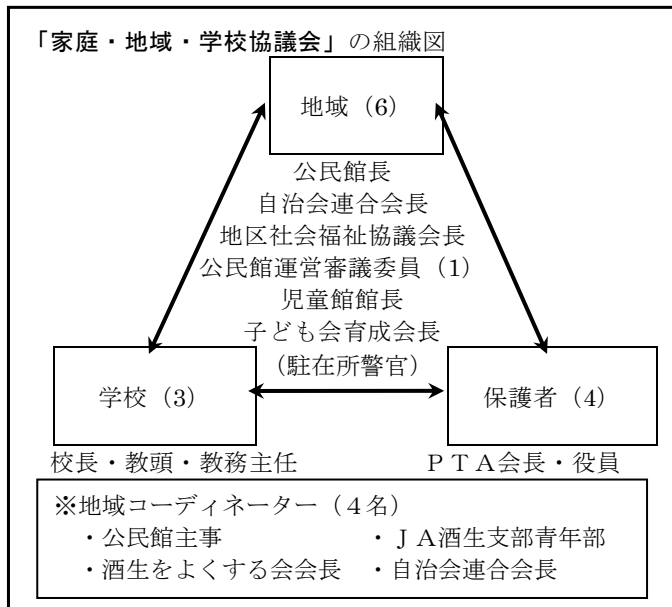


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ①開催予定回数 年2回
- ②開催日程 6月 2月
- ③協議内容
 - ・家庭・地域・学校の連携に関する取組
 - ・保幼小中の連携
 - ・地域の人材活用
 - ・地域の安全確保
 - ・各団体行事の連携
 - ・外部評価
 - ・地区内の安全点検
 - ・学校評価
 - ・スクールプラン
- ④小中合同開催 1回開催予定

(3) 協議会における成果と課題

第1回の協議会では、昨年度の学校評価の結果と本年度のスクールプランを提示し、委員の方々に学校運営について理解を深めていただくことができた。また、駐在所警官にも参加していただき、酒生地区の安全マップ等についての検討し、児童の登下校時などの安全確保や校区内の危険箇所などについて共通の認識をもつことができた。

第2回の協議会では、今年度の学校評価での児童回答と保護者回答の乖離についてご意見をいただき、地域や保護者が求めている子どもの姿をよりはっきりと意識することができた。また、「地域と関わる取組一覧表」を提示し、地域として育てたい子ども達の姿を意識して、どのような取組を継続していけばよいかの助言をいただき、一覧表を精査することができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地区や外部の人の支援も受けながら、キャリア教育を計画的に実施するとともに、地域の文化、産業、歴史等、地域に根ざした事柄を体験的に学ぶ機会を増やすことで、地域や学校に愛着と誇りを持つ児童を育成する。

(2) 活動の実際

①自分たちで育てた古代米でお餅をついて、「収穫祭」をしよう。(5年生)

5年生が、J A酒生支部壮青年部の協力を得ながら、学校田で古代米を栽培した。5月に田植え、10月に稲刈りを行い、間の期間は苗の成長を観察してきた。また、11月には、収穫した古代米を使って餅つきを行い、全校児童・保護者・地域の方々と収穫を喜び合った。収穫祭の中で、5年生の児童がお手伝いしてくださったボランティアや保護者を含めた約30名の



(様式3)

地域の方々に向けて、総合的な学習の時間などを使ってまとめたことを「酒生の未来と私たちの将来」と題して発表した。

②「酒生っ子わくわく未来探検デー」(4～6年生)

4年生から6年生までを対象に、「おしごと探検隊 アントレ・キッズ in 酒生小学校」を行った。講師の選定にあたっては、PTAや地域から広く講師を募った。児童の希望をもとに、前半と後半の2グループに分けて、全員が2職種の話が聞いた。児童は講師から働く意義や楽しさ・仕事の内容を聞いたり、実際の仕事の一部を体験したりすることで、自分の親も含めた大人の働く大変さを感じることができた。



③「酒生地区歴史マップ」をつくろう(6年生)

酒生地区は、古代から栄えたことを示す古墳や遺跡が多く残る地区である。自分のすむ地域をさらに深く知り地区外の人にPRするために、「歴史マップづくり」を行った。また、地域の歴史語り部の方を招いて、酒生地区の歴史や永平寺との関連などについて話を聞いて、地域への理解を深めた。



(3) 特に工夫した事項

- ・「古代米収穫祭」では、発表の中で児童が福井県や福井市、酒生地区の現状を調べ、酒生の未来について提案した。また、調べていく中で、自分の将来の姿などについても考えさせた。
- ・「歴史マップづくり」では、児童が酒生についてより深く知ることができるように、出土品など具体物を用意した。

2 地域コーディネーターについて

(1) 地域コーディネーター(4名)

酒生公民館主事、JA酒生支部壮青年部代表、酒生をよくする会会長、酒生地区自治会連合会長

(2) 地域コーディネーターの活動概要

- ・「収穫祭」においてJA酒生支部や地域ボランティアの方と調整に当たっていただいた。また、田植え、稲刈りなどの作業も児童と一緒に行っていただいた。また、5年生が例年行っている「ビオトープ(酒生わいわいトープ)定点観測」でも講師のビオトープ管理士の選定についてお世話していただいた。
- ・酒生公民館主事には、「酒生っ子わくわく未来探検デー」の講師選定に当たって、講師の選定への協力をお願いした。

3 成果と課題

「収穫祭」では、総合的な学習の時間で福井県や福井市の未来について考えている学習の延長上として、さらに身近な「酒生地区」に目を向けて『酒生の未来と私たちの将来』について発表した。ただ単に、現状について述べるだけでなく、これからの酒生地区のために、自分たちができることについて、提案を行うことができた。

「酒生っ子わくわく未来探検デー」では、児童の希望調査を行い、その希望に添ったそれぞれの仕事について話を聞き、体験することで、社会の中でのそれぞれの仕事の役割や仕事に対する「生きがい」を聞くことで、職業意識の向上に役立った。しかし、本取組も4年目を迎え、PTAや地域への講師募集の働きかけを早い段階から行ったが、思ったように講師を集めることができなかった。企業のCSR活動は進んではいるが、保護者からすると自分から申し出る

(様式3)

ことが難しいのかもしれない。PTAの方々や地域の方々が講師を務めることの意義や目的をさらに伝えていく工夫も必要である。

「歴史マップづくり」では、地域の歴史語り部の方の話聞くことで、3年生から学んできた酒生地区の歴史や古墳などについての理解がより深まった。今後は、自分たちが学んだことを人に分かりやすく伝えるということに取り組ませたい。